

---

# ポインセチア

山羊ノ宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ポインセチア

### 【Nコード】

N8501I

### 【作者名】

山羊ノ宮

### 【あらすじ】

食卓の上には真っ赤なポインセチアの花が誇らしげに飾ってあった。

別名クリスマスフラワーとも呼ばれるこの花の花言葉は『祝福』・・・

・ この聖夜に相応しい花言葉である。

食卓の上には真っ赤なポインセチアの花が誇らしげに飾ってあった。別名クリスマスフラワーとも呼ばれるこの花の花言葉は『祝福』・・

この聖夜に相応しい花言葉である。

「久仁子、お皿用意して」

「あ、うん」

母さんが買ってきたフライドチキンをバケツのような紙の容器から取り出す。

そう言えば幼い頃、クリスマススの日に買って食べていた記憶がある。かすんだ古ぼけた記憶だ。

それから私は蜂蜜のパイとサラダを三つの皿に均等に乘せた。

ポンつと不意に音がした。

いきなりなんだと私は音のした方を見る。

そこでは父さんがシャンパンを開けていた。

私と母さんが父さんを見つめ、父さんは「すまん」とだけこぼした。二つのグラスにトクトクとシャンパン、シャンパーニュ地方のものではないので正確にはスパークリングワイン、が注がれた。

良く冷えたグラスに注がれたその黄金色の液体は、グラスの霞の向こうに見える泡と共に部屋中にワインの香りの花をばらまいた。

今日ぐらいは私もお酒を飲んでみたい気もするが、同じような炭酸の茶褐色のもので我慢する。

「それじゃあ、頂きます」

母さんは手を合わせ、そして鳥にかぶりつき「おいしいわね」と漏らした。

私もそれに倣い、手を合わせて鳥に口をつける。

味はおいしい。

父さんは鳥には興味ないようでシャンパンをあおり、一気にグラス

を空けた。

早く酔いたいのだろうか、そんな風にも見えた。酔ったところで、何も変わりはない。

父さんがまたシャンパンを注ごうとすると、母さんが私もと一気に空けた空のグラスを父さんに差し出す。

二つのグラスにまたシャンパンが注がれる。

そして、二人はまるで競い合うように、また一気にグラスを空にする。

会話は無く、ただ物を飲み食いする音だけが響いた。

テーブルの上のポインセチアは完全に滑稽な道化と化している。

私は炭酸飲料でのどを潤し、また鳥に口をつけた。

味はおいしい。

明日、両親は離婚する。

今夜は聖夜、家族最後の晚餐である。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8501i/>

---

ポインセチア

2010年10月11日12時36分発行